

# えんどうまめ通信

H24・7月 vol.1

練馬区立中村小学校 心のふれあい相談員だより

遠藤 絵里



「自信をもって輝いて！」

夏休みも目前に迫り、暑い毎日が続いています。皆様、いかがお過ごしですか？この通信は、誰もが直面する子育ての悩み、親子の関係について、母親である私もいっしょに考えていけたら嬉しいな～と思い、発行しています。「なーんだ、みんなそうなの？」といった安心感や、ちょっとしたヒントを分かち合えたら…と願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度、新しく中村小に来させていただき、いろいろなことに新鮮な驚きを感じる3カ月が過ぎました。まずは青々としたきれいな芝生！子どもたちが裸足になって気持ちよさそうに走っている姿を見て、この学校の子たちは幸せだなあ、と感じました。

子どもたちの様子は、なんとなく「都会的」な印象があります(前任校が少々郊外だったせいでしょうか…?)。やるべきことに一生懸命取り組んでいて、明るく、垢ぬけている印象をもちました。

練馬で一番大きな小学校ということですが、その数だけいろいろな子どもたちがいるわけです。バレーが好きという子、走るのが速い子、算数が得意という子、低学年の面倒見がいい子…などなど。みんなそれぞれすばらしいと思います。何か得意なことがあると、自信をもって生き生きと見えます。好きなことを見つけている子は、多少苦手なことがあっても、それをカバーしていく力をもっていますよね。何かに自信をもつことは大切なんだなと感じます。そして、学校は、一人一人がもっている原石(磨けば光る!)を見つけていけるチャンスのある場所でもあるのかな、と思いました。

でも、もう一つ、これまでの相談活動を通して見えてきたことは、さらに根本的な「自信」…すなわち、「自分は愛されているという自信」が、すべての問題解決のベースになり、まだ万能薬にもなり得るということです。たとえ、苦手なことばかりでも、いえ、もし何も特別に得意なことがなかったとしても、「それでいい」「そのまま愛されている」という自信があれば、人は揺らぐことなく安心して問題に取り組んでいくことができるのではないかなと思っています。それを伝えることは、私たち親の役目であるし、親にしかできない「特権」でもあるのかもしれません。子どもに「愛しているよ」ということを伝える方法も様々でしょうが(これについては次回いっしょに考えていきましょう!)、まずは照れずに言葉にして「大好きだよ」「I love you」「頑張ってるね」「いつも見てるよ」…と伝えていきませんか？

もうすぐ夏休み。子どもたちと過ごす時間が長くなります。我が家でも、親子でお互い気持ちよく過ごすために、ちょっとだけ親の方から歩み寄ってみようかなと考え中です！

どうぞお体に気をつけて、楽しい夏をお過ごしくださいね。

相談室直通電話 080-2010-1957 月・水(9時～2時)・木(9時～3時) (火曜日は皆川先生です)

Profile 遠藤絵里 大学院で児童学専攻修了。保育・教育雑誌の編集、ライターを経て、現在家族関係心理士(心理カウンセラー)。高校生の息子と中学生の娘の母親。